

連載...

No. 6

モンテソリー教育ってなに?

2008年10月

これまでの日常生活の活動、感覚教育についてお話ししてきました。

今回は、「数教育」についてお話ししましょう。

「数教育」と聞くと、幼児に数などまだ早い難しいのでは?と思われるかもしれませんが……私たちの生活の中で、例えば、一定時間がくればお腹がすき、眠り、目が覚めます。



それらの一日の生活自体、実は、数と深い関係を持っています。

その深い関係とは…例えば、

- 出席カードのシールを枠の中にきちんと貼ること。



順番通りシールを貼ることは、数につながります。

- 子どもは2歳ぐらいからコップに注がれたジュースの量が多いか少ないかで兄弟喧嘩をします。



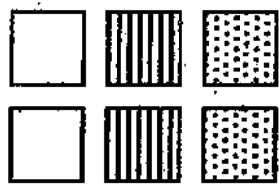
これは、どちらかのコップのジュースの量が多いかが分かっているからです。

★このように生きていることは、直接的にまた間接的に数と関わっています。

そして、感覚教具に触れることも数教育につながります。

1 対応づけ(同一性さがし) たくさんある中から同じものを選ぶ頭の動きの練習

- ◆ 数量と数字を正しく対応させるための準備



(布あわせ)

1 → ●

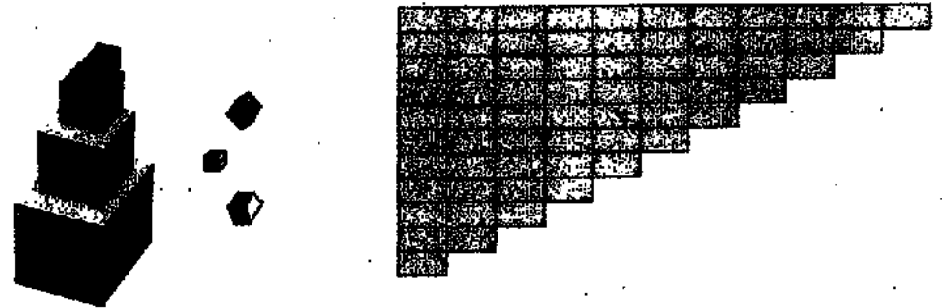
2 → ●●

3 → ●●●

4 → ●●●●

2 順序づけ (例)ピンクタワー、赤い棒

- ◆ 数の1、2、3…が一定の漸次的な変化を追っていることを知らせる準備



3 分類づけ(類似性さがし) (例)重量板

- ◆ 加減乗除の四則の計算に入る時、位取りをそろえる時などに必要

<教具紹介>

砂数字板

(材料) なめらかな板10枚に黒い砂紙(紙やすり状の物)を切り抜いた0~9までの数字が一枚ずつ貼ってあります。

(紹介)①砂数字板の入った箱を机に運ぶ。



②はじめは1、2、3の3枚のみを紹介する。

③1の板を取り、机に置き、よく見せる。

④左手板の余白を押さえ、右手の人差し指と中指で筆順に従ってなぞり、「1」と言う。
同様に2、3も行う。

数を理解する最初の一步は目に見える量を実感することからはじまります。子どもは、抽象を教具という具体物を通してことによって、実際に目で見て、触って確かめることにより、驚くべき吸収力で数をたのしく、理解していくのです!!